飛田雄一エッセイ

ひこうき、のるかそるか

●

最近（2024 年 8 月）、Tway で韓国大邱に行ってきた。このLCC、このコースは初めてだ。軍事空港と兼用しているとのことで写真撮影は禁止。そういえば、軍用機の格納庫（掩体壕）ぽいものもあった。Tway の羽根はかっこいい。赤いデザインもいいし、最後のそり上がりもいい感じだ。上手な運転（操縦？）だったが、どう考えてもあんな大きなものが空を飛ぶことは理解できない。

●

1978 年、初めて韓国にいった。もちろん飛行機。仁川空港はなく金浦空港だった。日韓のキリスト教都市産業宣教委員会の交流のためだ。会議場は、水原のアカデミーハウス。当時、韓国のその委員会が YH 紡績、東一紡績などの女子労働者の権利擁護ために闘っている最中だった。ビザも必要な時代で、その交流を問題視していた韓国政府が横やりをいれて、大阪領事館関係の参加予定メンバーにはビザが下りなかった。私は、神戸領事館関係なのでビザがおりた。

帰路、東京から参加のメンバーが「不穏ビラ」を持ち出したと問題となりその日の飛行機に乗れなかった。翌日帰国の私はそんなことは知らずにソウル市内を観光していた。あとで聞くと、金浦空港では、「“とびた”はどこにいる」と聞かれたという。韓国の係官が「ひだ」と読まずに「とびた」と読んだので助かった？

●

その後、その日本側関係者はブラックリスト入りして、ビザが発給されなかった。1981 年、再び協議会がソウルで開かれたときに韓国のキリスト教関係者が努力してくれて、ビザがＯＫとなった。でも入国時、まだ私のパスポートを見た係官が「飛田が来ているがＯＫなのか？」などと電話したりしていた。

●

中国に初めて行ったのも 1970 年代。神戸学生青年センターの理事長・河上民雄先生の関係で、社会党訪中団のメンバーとして行った。河上先生は行かれなかった。その団は特別待遇で、入管のチェックはなく、タラップから直接バスに乗り込んだ。北京市内もパトカーの先導があった。団長、副団長はそれぞれリムジンにひとりずつ、その他のわれわれはマイクロバスだった。ウルムチにも行った。北京から同行した共産党の幹部が、「ウルムチにはまだ人民公社が残っているのか」と言っていた。びっくりした。

●

2 回目の訪中は、むくげの会が『中国の朝鮮族―延辺朝鮮族自治州概要』（1987 年 12 月）を出版したときだ。招待状がきたが旅費は個人負担。当時格安航空券はなく、中国へは一律 16 万円の時代。お金がない私は、当時の学生センターの小池基信館長に頼み込んで出張にしてもらった。学会に出席する

のが目的だったが、途中さぼって延辺在住の柳東浩さんと白頭山に登った。楽しかった。

●

中国には、1997 年から神戸・南京をむすぶ会で 23 回も訪問している。1996 年ゴールデンウイークに神戸で「丸木位里・俊＆中国人画家の南京展覧会」を開いたのがきっかけだ。その時のボランティアが約 30 名。むすぶ会は、一度みんなで南京へ行こうということで作った「旅行グループ」だった。まさか毎年行くようになるとは思わなかった。それぞれのフィールドワークノート、報告書がだいぶ出されている。これをきっかけに私もツアコン（無資格なので、もぐり）をすることになった。飛田『旅行作家な気分―コリア・中国から中央アジアへの旅―』（合同出版、2017 年 1 月）にだいぶレポートがのっている。

●

朝鮮民主主義人民共和国に行くために瀋陽に行ったこともある。日本と北朝鮮には国交がないので、瀋陽でビザをもらった。それも団体ビザで、パスポートにスタンプをおすものではない。平壌でそれを見せ、出国時、それは回収されるのだ。それが分かっていたから写真もとった。でもどこかにいってしまった。

帰路は平壌から瀋陽まで列車だった。往復飛行機を勧める旅行会社を説得してなんとか復路は列車にできた。平壌駅で

ガイドとさよならをして列車が動きだした。が、なぜかバックしてまたガイドとあった。間が悪かった。

その国際列車はおもしろかった。新義州で税関職員がメンバーの竹の棒をみた。

「これなんだ」。実はそれは皿回しの棒。メンバーのひとりが余興で現地の人と仲良くなるために持参したものだ。そこでも実演して仲良くなった。この旅のレポートも、『むくげ通信』187 号（2001 年 7 月）にある。

●

韓国へはその後、何回か訪問した。合計 70 回ぐらいになるのではないかと思う。最初は数えていたが、何回目かからやめた。キリスト教関係、在日朝鮮人運動の合同研究会関係、強制動員関係、そして、個人的な旅行だ。「友をたずねて三千里」旅行もあった。往路は関釜フェリー、帰路は飛行機だった。朝鮮語講座の先生でもあった徐正敏さんを訪問したとき、まだ夜間外出禁止令があった。飲み過ぎてうろたえたこともある。

当時、外国でチケットを買うと安かった。フィリピンで日本へのオープン往復切符を買うというのもあった。飛行機会社が反対してその後それができなくなった。

「友を訪ねて」の時はＯＫだった。ソウル・盛岡の 1 年間有効のオープンチケットをかった。オープンチケットでは、途中たちよりも同じ料金でＯＫ。大阪にもどった。その後、

盛岡にいった。そして 1 年以内にまたソウル。福岡経由でソウルに行った。ひょっとしたらもっとがんばって、大阪・福岡・釜山・ソウルだったかも知れない。

●

先の日韓都市産業宣教会の関連で、10 数年たつのに韓国入管で電話されたりしたこともある。今は格安航空券（LCC）があるので、普通の飛行機に乗らない。釜山の友人を訪ねたとき、友人（林オンギュ）が金海空港まで送ってくれた。教え子がアシアナで働いていた。私は JAL 便だったが、彼女は JAL のカウンターまでいき、何やらお話。すると、JAL 便なのにファーストクラスとなった。いいかいなと思ったがゆったりと帰ってきた。

●

実は、もう一回ファーストクラス（今はビジネスクラス）に乗ったことがある。神戸・南京をむすぶ会訪中で、帰国時、空港に行くと予約が取れていない。たいへんだ。ガイドの戴國偉さんがリコンファーム（予約の再確認）を忘れていたのだ。当時、リコンファームは必須だった。仕方がない、航空券を再購入した。ファーストクラスしか残っていたなかったのだ。戴さんが、代金は払うと言っていたが申し訳ないので半分をメンバーで負担した。いつのころからか、リコンファームは不要になり、紙のチケットさえも不要になった。スマホでスイスイと通過する人もいるが私は不安だ。予約確認証

は必ずプリントしている。

●

むすぶ会は、南京ともう一カ所を訪問する。南京から海南島を訪ねたときのトラブルは冷や汗ものだった。メンバーのパスポート番号を飛田がまちがっていたのだ。毎年参加のメンバーで、私が前年の番号をコピーしてしまったのだ。関空では問題がなかったのに、海南島行きの便でひっかかった。懸命に交渉してもだめだ。海南島で待っている神戸華聯旅行社の金啓功さんに連絡もした。時間が迫ってきて、私が購入することになった。そのカウンターで手続きを進め、いざ支払ということにクレジットカードがない。またもどってクレジットカードをもって再びカウンターへ、というとき金さんから電話が入った。海南島のホテルでパスポート番号の変更ができたとのこと。助かった。そのとき支払うべき料金も忘れてしまった。

●

その後、日本では中国観光ブームになって、チケット確保に苦労したこともある。１）南京直行、２）上海経由、３）香港経由と別れて、総勢 20 名が南京で合流したこともあった。複雑かつ便の遅れもあって感激の再会だった。

●

持ち込み荷物についても、航空会社の対応もいろいろあった。むすぶ会の最初のころ、南京から更に奥地に行くとき、

中国の友人からウイスキーをもらった。ガイドに聞くと預け荷物ではダメで、持ち込みがいいとのこと。そのようにしたら、引き返して預けてくれとのこと、またもどって預けた。そのウイスキー、中国で飲んでしまったのか、日本で飲んだのか、どんな味だったのか、忘れてしまった。

●

海外旅行のおみやげでは、学生センターの小池基信元館長の場合はイングランドウイスキーだった。瓶とケースがかっこいい。味は普通か。私も何回かおみやげに買った。でも、海外の空港でウイスキーを買うと安いという時代もむかしの話となった。

私は空港で小ぶりのプラスチックケースにはいったウイスキーを何回かかった。国内ではなぜか売っていない。登山の水筒にいいのだ。歩いていても体にフィットする。でも、登山用の水筒なのに、私が酒を飲みながら山に登っているとまちがわれることが多かった。最近はやめた。

韓国人留学生が学生センターにタバコもおみやげを持ってきたことがある。それを嫌煙権運動のリーダーに渡した。彼は断った。留学生はさらに勧めた。彼は彼の目の前でゴミ箱にポイと捨てた。ふむ・・・。

1970 年代、私が市民運動にかかわっていたとき、タバコをみんなよく吸っていた。だいぶたって私も偉くなって？、会議中での禁煙を宣言した。その禁煙宣言がまだ珍しい時代だ

った。

おなじく嫌煙権運動のリーダーM さんは新幹線タバコ反対の運動をしていた。先駆的だがいまでは常識だ。彼にわが家の子猫4匹のうち 1 匹をもらってもらった。彼もその猫もどうしているのかな。いま、タバコを吸う人は本当にかわいそうだ。ドトールでタバコを吸うためにコーヒーを飲んでいる人もいる。私はこの世界からタバコがなくなっても平気だ。ただビールだけは残してほしい。

●

むすぶ会中国旅行で荷物のトラブルもあった。機内持ち込みで 100CC 以上の化粧水が拒否された、おみやげのドライバーセットがダメ、波戸雅幸さんは軸が 7、8 センチの珍しいマッチでダメ。私はそのマッチを1箱もっていたが彼はそれを5箱ももっていた。仕方がないだろう。

私もいいかっこうは言えない。むすぶ会中国ツアーの初期のころ、中国入国時、団員を誘導して最後のゲートをでたらバッグがない。人のことばかり気にしていて自分のバッグを忘れてきたのだ。もどれない。こまった。その波戸さんが持ってきてくれた。助かった。

●

私の外国は、韓国と中国がほとんどだ。あと、フィリピンに 2 回、ヨーロッパに 2 回、台湾に3回、香港に 2 回、ハワイに 1 回。シンガポール、ベトナムに行きたくて「地球の歩

き方」を猛勉強したが、未遂である。

フィリピンで 3 週間のキリスト教の研修に参加したことがある。心身ともに疲れて夜日本人の友人と街へ繰り出した。帰路のタクシー。警官となのる強盗にあった。同乗の大津健一さんの機転で命拾いした。フィリピンの帰路、入管が込み合っていて困ったが、お札を見せて係官に渡して入っていく人がいた。われわれグループがそうしたのか分からないが間に合った。公然たるワイロにびっくりした。

●

空港で別の旅の友人と出会うこともときどきある。関空、仁川、上海でもあった。思わぬところで久しぶりの人にあうと思い出せないこともある。結局お別れしてからも分からない人がいた。後日大阪の KCC（在日韓国基督教会館）での会合のあといきつけの韓国料理店「名水」に行った。そこの女主人、彼女と関空であったのだった。長い間のもやもやが解けてすっきりした。

●

ヨーロッパは、娘の留学中のスウェーデンを訪ねた。きれいな公園で現地の人にシャッターを押してもらったら、なぜか写真が全部消えてしまった。なので頭の中にだけ、素晴らしい風景がのこっている。スマホの時代なら、動画も含めてたくさん撮っていただろう。

●

ヨーロッパにはもう一度、スイスにいった。私は山仲間と日本国内の山をけっこう登っている。その集大成でスイスに行こうということになった。2018 年。モンブラン、マッターホルンも、見た。素敵だった。長文のエッセイをだしたので、希望者にはお送りする。帰路、日本に台風がきた。帰国便が欠航するという。困った。台風のせいで関空の橋に船がぶつかったのだ。東京の旅行会社の人に電話をした。時差の関係で夜中だった。申し訳なかった。同じ航空会社の名古屋行に変更ができた。ほっとした。なぜか、飛行機会社から名古屋大阪の新幹線代まででた。

そのとき、飛行機便を変更しなかった友人はその後 3 日間、スイスに滞在することになった。スイスは物価が高い、たいへんだったと思う。時差は、つらい。スウェーデンのときにまいった。スイスの時は、帰国する前日から時計を日本時間に変更した。太陽がでていても今は〇時だ、〇時だと自分に言い聞かせた。うまくいった。飛行機のなかでも、それを守った。サッカー・ペレの長いドキュメンタリーを見たりした。おもしろかった。国内線の ANA 寄席は好きでよく聞く。途中で到着してしまうとつらい。こちらには「落ち」が必要だ。

●

台風と飛行機。学生センターの韓国祭りツアー「江陵端午祭」の出発の日にもやってきた。メンバーの志村さんが来ない。関空橋の電車が止まった。バスより電車の方は早く止ま

るそうだ。ツアコンの私はあせった。出発 20 分前、カウンターの係官が「もうだめです。入ってください」。　そのとき、志村さんが飛び込んできた。タクシーできたとのこと。カウンターですばやく手続き。そして、胸に大韓航空の赤い「ワッペン」を貼ってくれた。そのワッペンの威力は絶大だ。いくつかの検問をスイスイと通してくれた。間にあった。機内に入ったときの他の乗客の目は冷たかった。

●

パスポート関連で問題の牧師さんがいた。バプテスト連盟の牧師たちの韓国ツアーをガイドしたときだ。釜山金海空港に集合した。成田、関空、福岡空港からだ。ひとり足らない。島根県の牧師さん、韓国の事前のビザ申請が不要になったという情報を聞いて、パスポートを持たずに福岡空港に来たのだという。もちろんダメだった。ほんとに楽しいツアーだったのに。

●

パスポートに押してもらうビザスタンプの「変造事件」もあった。行先も忘れたが、几帳面なメンバー、後日の記録のために日付の不明な部分を鉛筆で書き足した。出国時、問題となった。偽造ではないのか？。なんとか、通過させてもらった。几帳面さもほどほどにしなければならない。

●

ウズベキスタン、カザフスタンへの旅はほんとにおもしろ

かった。もう行くことはないだろう。ソ連のカザフスタンから最初の交換教授としてソウルに来たゲルマン・キムと日本で交流があった。その後、ソ連は崩壊し、音信がなかった。カザフスタン語のできないゲルマン・キムは、その後もカザフスタン大学で教授として働いているのか気になっていた。10 年ぶりに連絡がとれた。これは、行かなくてはとカザフスタンにいった。学生センター主催「中央アジアのコリアンを訪ねる旅」だ。カザフスタンとウズベキスタン、ビザ取得のための大使館が東京にしかない。パスポートを宅急便で送ってくれとのこと。不安だがしかたがない。返送用の宅急便伝票を同封して送った。しばらくして無事ビザスタンプをおしてもどってきた。同じようにウズベキスタンビザも取得した。宅急便のすごい使い方もあるのだ。

この旅、メンバーの S さんは少々トラブルメーカー。帰路、仁川空港で「トランジットなので外に出てしまわないように」と注意したが出てしまった。もういいかとも思ったが無事われわれのところに戻ってきた。その詳しいルートは聞いていない。その S さん、むくげの会の韓国ツアーのときにも同行だった。関空の入管でなにやらもめている。係官が、Sさんが分かってくれないと私に説明した。持参のパスポートは有効期限がまだあるが、「無効」となっているのだ。S さんに聞くと以前紛失したことがあって再発行した、今回はでてきた古いパスポートを持参したようだ。当然、飛行機には乗れなか

った。翌日、新しいパスポートを持参して追いついてきた。がんばり力はある。

●

私の山仲間にパイロットがいる。彼らは、予約はできないが、空席があれば無料で乗れる。そのせいか、遠い山に行く機会にめぐまれた。東北、北海道の山にけっこう登った。東北は、八海山、飯豊連峰、朝日連峰、北海道は、大雪山、トムラウシ、知床連山だ。あるパイロットは、山を下ってから奥さまに電話をしている。「きょう、千歳空港でラーメンを食べよう」。奥さまも同じように無料になるようだ。

パイロットならではの貴重な話も聞いた。たとえばずっと疑問に思っていた「逆噴射」。プロペラが逆にまわりだすとき、すごい力がかかるが大丈夫なのか？　実は、「逆」噴射ではないとのこと。ジェットエンジンの出口の一部にフタをするのだという。羽田沖で逆噴射による事故についての疑問が解けた。不時着の時には油を空中でまいて最低限の油にするという。大丈夫かなと思うが、上空から霧状に散布したら問題がないとのこと。

●

知床連山縦走の時、予約トラブルがあった。これは私のミスだ。伊丹空港に関西組の３名が集合した。チェックインしようとしたら私だけ予約がないという。どうもずいぶん前に予約をして代金の支払いを忘れていたようだ。こまった。女

満別空港には、山岳ガイドが迎えにきてくれる。その車に乗らなければならない。次の便も 2、3 日後。２名と再会を祈ってお別れし空席待ちの席に並んだ。うまく購入できても早割ではない。

席があった。うれしい。そのときのカウンタースタッフがたまたま娘の同級生。

「おいくつになられましたか？」

「65 になったとこです」

「65 歳になるとシニア割り引きがあります」

おお！

結果的に早割の代金より安かった。ラッキー！

そして、無事飛行機に乗り込んで仲間と合流した。縦走はけっこうハードでしんどかったが、参加できてよかった。

●

屋久島・縄文杉登山にも飛行機でいった。安いツアーだったので直行便ではなく、鹿児島経由だった。連れ合いとそれなりに六甲山でトレーニングをして、なんとか登ることができた。ぎりぎりだったかな？

帰路、鹿児島の開聞岳を上空からみた。きれい、すごい、かっこいい、登らなくては。また別のツアーに参加して、開聞岳と韓国岳（からくにだけ）を登った。これはひとりだった。飛行機ではなく、神戸から宮崎へのフェリーだ。私は、船も好きだ。開聞岳は同名の小説、朝鮮人特攻隊員のことを

書いたものがある。

韓国岳登山後、バスが故障した。重傷で、替わりのバスが来るまでだいぶ待たされた。夕食もさびしい弁当になった。しかたない。開聞岳はしんどかったが素晴らしかった。帰路もフェリーだった。

●

佐渡金山のユネスコ世界遺産に関連して、強制動員真相究明ネットワークの新潟集会と佐渡フィールドワークがあった。2022 年 8 月。往路は長野伊那の友人を訪ねて青春 18 きっぷの旅、復路は飛行機だった。ピーチを予約した。佐渡でバスを乗り損ね、タクシーをなんとか確保し新潟空港に到着した。が、予約表をみると翌日になっている。よく分からない。ピーチのカウンターもない。新潟市内の東横インをとって市内にもどり、うろうろして翌日無事関空にもどった。複雑な日程だったので私がまちがったのだろう。

●

仙台・神戸は直行便があって便利だ。何回か行った。私は神戸空港建設に反対していたが、最近はよく利用する。成田空港も、実は完成後すぐに利用した。社会党の訪中団で利用したときだ。べ平連神戸のメンバーもよく成田闘争に行っていた。長い間、そのことは内緒にしていた。尊敬する T 先生は、「新幹線には乗らない」宣言をされていた。今はどうも乗っているらしい。ふむ、私もそうです・・・・。

●

今年（2024 年）になって青森へも飛んだ。八甲田山春スキーだ。春スキーをしたかったのだ。立山、月山を考えたが、ガイドがなくてもひとりで滑れることが必要だった。八甲田山はロープウェイもあり、ひとりで行けそうだった。青森へは青春 18 きっぷの旅は無理だ。往復飛行機となった。飛行機からみた岩木山もすてきだった。

でも、もうやめたほうがよさそうだ。ひとりで滑るつもりだった八甲田山、青森に一人だけいる友人に連絡したら、その彼も彼女もスキーをするという。彼女の方が、本格的なようだ。なかの一日、彼に車でロープウェイ駅まで乗せてもらい、彼女とスキーをした。快晴で、最高の春スキーだった。

＜あとがき＞

「ひこうき、のるかそるか」。この冊子の題名に、とくべつの意味はありません。ただひらがなの題にしたかったのです。

締め切りが迫っていた論文を書かなければならなかったのですが、そんな時には関係ないことを書きたくなるのです。

飛行機をテーマにエッセイを書いてみよう。そしたらなんやかやと思い出してこんなのができました。ご笑覧ください。

2024 年 9 月 1 日　飛田雄一

飛田雄一エッセイ

ひこうき、のるかそるか

2024 年９月２日発行

執筆・編集・印刷・発行　飛田雄一（ひだ　ゆういち）

〒657-0011 神戸市灘区鶴甲 4-3-18-205

e-mail　hida@ksyc.jp